



自分たちの足元から取り組んでいます

皆さんは、「こどもエコクラブ」を知っていますか。これは、子どもたちが自主的に楽しく環境活動を行えるように、環境省が全

国展開している事業です。二人以上の小・中学生と、その活動を手伝う

活動に役立つヒントがいっぱいの「会員手帳」と「会員バッジ」。いろいろな情報が満載のニューズレターも、年五回届きます



サポーターと呼ばれる大人がいれば、家庭や学校単位でだれでも無料で参加できます。登録したメンバーは自然観察やごみ減量、リサイクルなど、環境についての活動を行います。

昨年度、市内では二十三クラブ、四百三十人のメンバーが活動しました。その一つが、新川地区の北守さん親子で結成している「アースキップズ」。姉の美香さん（中二）と妹の有沙さん（小六）がメンバーで、お母さんの敦子さ



「地域のみんなで取り組む機会が増えてほしい」と話す有沙さん(左)。「これからもずっと続けたい」と美香さん

んがサポーターという家族単位のクラブです。

「四年生の夏休みの自由研究で、環境について調べたときに、このクラブのことを知り、すぐに妹とお母さんを誘って登録したんです」と美香さんは笑顔で話します。

「それからは、毎年、自然観察や近所のごみ拾いなんかをしているんだよ」と目を輝かせながら話す有沙さん。昨年、美香さんは、北海道代表としてカナダで開かれた発表会に参加。「ほかの国の子どもたちの取り組みも、大変参考になりました」と美香さん。私自身も、いろいろと勉強させられます。また、この活動を通じて、子どもたち自身がたくましくなったこともうれいすね」と敦子さんは話してくれました。



真のリサイクルを実現するには、みんなの協力が必要です

区内で、「人と、地球と、緑とともに」をキャッチフレーズに掲げ、自然に優しい企業活動に取り組んでいる道栄紙業株式会社。限りある森林資源を守るため、紙ごみを原料とした再生紙製品を製造、販売しています。

平成十一年には、事務事業や企業活動に伴う環境負荷を減らしていく環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得。環境配慮型企業として地域社会に貢献しています。同社の環境活動を担当する非常勤



使用済みの上質紙や紙バックから再生されたトイレトペーパーとティッシュペーパー。紙バック30枚から、5個分のトイレトペーパーが作られます。大人1人平均、1.5カ月分の使用量に相当します

顧問の石塚祐江さんは、「ISO14001の認証を取得したことで、社員全員が環境について常



主力商品の芯なしトイレトペーパーを手に、リサイクルについて熱く語る石塚さん

に意識するようになりました。出入りの弁当業者に『使い捨て容器はやめられないか』と働き掛けることも、よくあるんです」と笑顔で話します。

「リサイクルへの取り組みはまだまだ始まったばかり。再生品を作るだけでは、本当のリサイクルとはいえません。再生品を利用することが、真のリサイクルなんです」と力を込めて話す石塚さん。

「リサイクルには、小さなことの積み重ねが大切。日々の生活の中で、簡単にできることに無理をしないで取り組むこと」と、継続の秘けつも教えてくれました。